



製薬協

第4回薬剤耐性（AMR）対策推進国民啓発会議

薬剤耐性（AMR）対策普及啓発活動 の取組実績について

2019年（令和元年）11月27日

日本製薬工業協会

日本製薬工業協会： 研究開発志向型の製薬企業73社（11月1日現在）が加盟する任意団体で、製薬産業の共通する諸問題の解決や医薬品に対する理解を深めるための活動、国際的な連携など多面的な事業を展開、国際製薬団体連合会（IFPMA）の加盟協会として、地球規模の疾患対策や発展途上国などにおける感染症対策をはじめ、世界の医療・医薬に関わる諸問題に対応。



- 製薬協総会（10月17日）において第4回国民啓発会議の開催予定（11月27日）や関連イベントならびに11月が例年どおり「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」であること等を周知し、会員企業に対し引き続きの取組を要請した。
- AMR対策のアクションプラン（2016-2020）に基づく国の動きについて引き続き情報提供するとともに、これに関連して昨年発出された抗微生物薬の適正使用に関し、該当各社が抗菌薬の添付文書改訂と医療従事者への情報提供を実施した。
- AMR関連イベントとして日本医師会と共催で講演会「感染症対策の歴史と現状～センメルヴェイスからの学び～」（11月22日）を予定している他、関係学会や関係機関との講演会等に当協会から講師を派遣。

- 当協会国際委員会はAMR対策の普及啓発の取組を促進する観点から作成した掲示用ポスターについて引き続き協会内外に普及展開した。
また、普及啓発用の動画も作成して活用した（いずれも英語版も作成）。
さらに本年はG20サミットに向けた提言活動の中でも新規抗菌薬の研究開発に対するPull型インセンティブの検討を要請し、首脳宣言にこれを検討する旨が盛り込まれた。
- 会員有志企業においては、専門家の協力のもと、「薬剤耐性対策応援」の趣旨で適正使用・院内感染予防等に関する情報提供HPを開設したり、NGOとの協力で手洗い・うがいや消毒薬に関する正しい情報の提供、医療・福祉・教育関連の機関への情報提供を実施している。また、自社や日本感染症学会などと協力した形で、シンポジウム・講演会を開催・協賛などを実施（合計約30件）

- 会員企業のひとつは、医療機関と協力して臨床分離病原性細菌における抗菌薬感受性動向調査（サーベイランス）を実施している。また、会員企業の中にはAMEDの医療研究開発革新基盤創成事業（CiCLE）に採択され、アカデミアとともにAMR菌感染症治療薬を目的とした創薬研究を開始しているところがある。さらに複数の会員企業が、開発分野絞り込み等の理由で開発を断念した候補薬剤をGARDP（Global Antibiotic Research & Development Partnership:WHOとDNDi が共同で設立している研究開発プラットフォーム）に提供している。

以上